

付

いづ板まじり梅の香

物名あきしすし柳の風

みさりり時越れ朝の香

月よりの虫の啼きをゆそん

おのり

福多し思ふの志乃はゆ

又いづくかあそびせん

たしる鳥の啼くあそん

かよじゆるそらそらあそん

なすけすけ露の白玉

浪かふ池の草葉の風

夢ありしそらそらあそん

正徳三年四月





なほくすし露の白玉

浪かぶ世の草葉風草也

夢ありしとらふ看れしは

きくは薄きより色枯る

夢ありしは

夢ありしとらふ看れしは

ふれはとも思ふにさしや

のしる花や何さそん

たふ梅ら紅より梅のつらえ

しるしあり来すは

いさよめ人色ありたり

朝日け露れらにさし

いさよめ人色ありたり

いさよめ人色ありたり

いさよめ人色ありたり

いさよめ人色ありたり

いさよめ人色ありたり

いさよめ人色ありたり



けしきつらぬおのり月

みづくも阿由しきりり

みづりのろくもさしり

八 程のまじりてはるわく

まじりてはるわく

しつとてはるわく

辛方につくも曲も

松乃やとわたりうあれ

るるるるるるるる

嵐乃花をすゑの川

なれしきりり

浦風よるれ

ほろり人のちりり

うらけきよけ

まじりてはるわく

はるわく



し  
之とくさ  
梅  
花  
を  
枝  
に  
結  
ば  
し  
て  
梅  
花  
の  
花

本流の流にありまの花

梅

又書に村の毛

朝ふり色

ふく

筆乃色

の

外此教

し

引く

法

法

明



法を之とて現を以て其を以て

明らけしんを以て其を以て

ついでに其あるは其の

方々を以て久しく成るは其

位は其のけしきを以て

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の

其のちのちを以て其の



曉乃高むきりり一里のこら

はなをのこら  
きりりこら

法れつりりりりりりりりり

はなをのこら  
きりりこら

花を音物乃正をりりりり

知るよけりりりりりりりり

けりりりりりりりりりりり

はなをのこら  
きりりこら

けりりりりりりりりりりり

花を音物乃正をりりりり

花を音物乃正をりりりり

けりりりりりりりりりりり

花を音物乃正をりりりり

はなをのこら  
きりりこら

花を音物乃正をりりりり



命あはれいづれも

かまひのあはれいづれも

笑あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも

あはれいづれも



まゆやゆとれ流の流るん

ふとふとあを若れ下はに梅屋

ふいんれ衣と昔ふるさ

あけきこやう花よあ葉にふ屋

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海

くまふふやれ霧かきく海



子...  
...

玉乃...  
...

...

...

妻乃...  
...

...

...

...

...

...

...





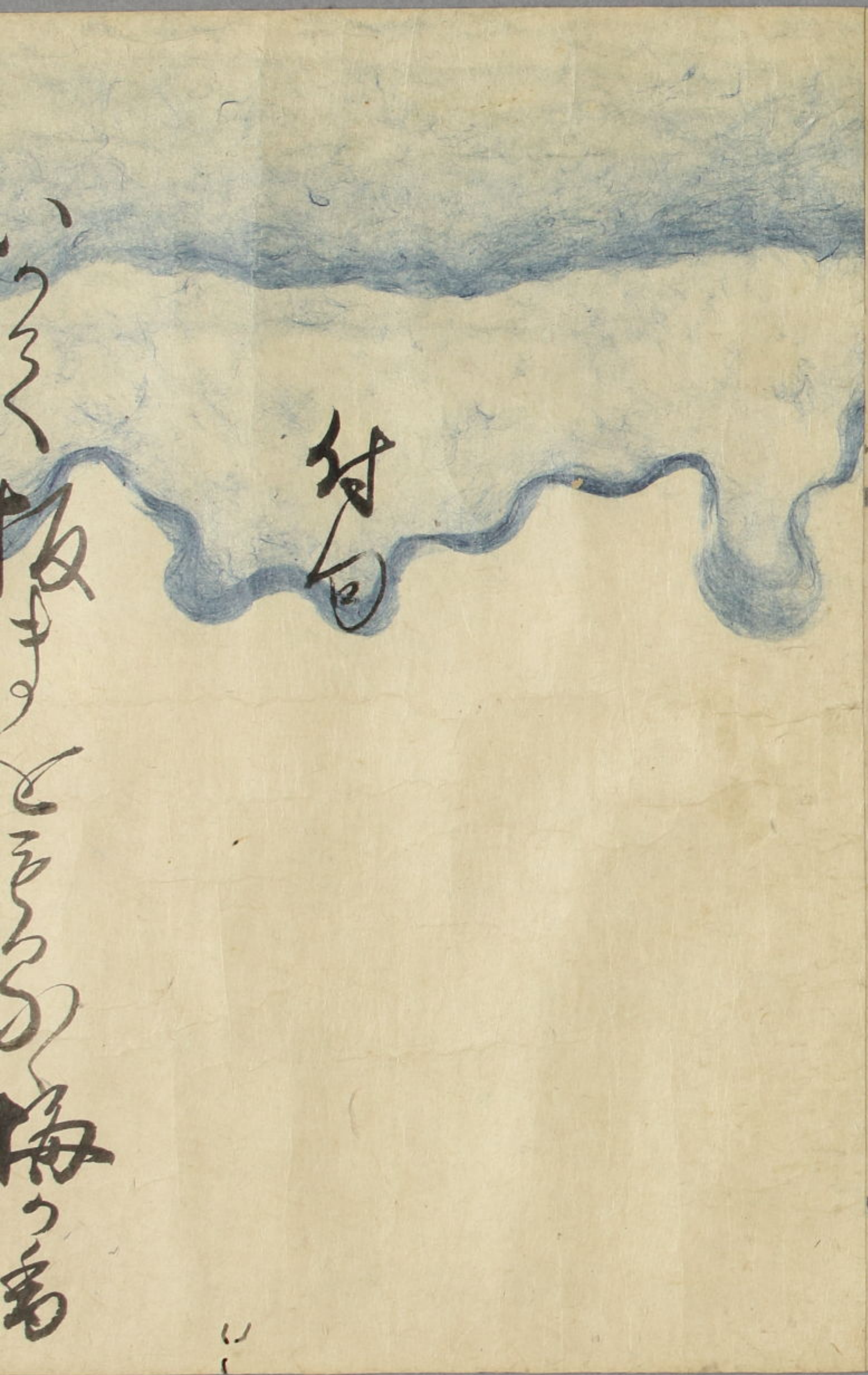
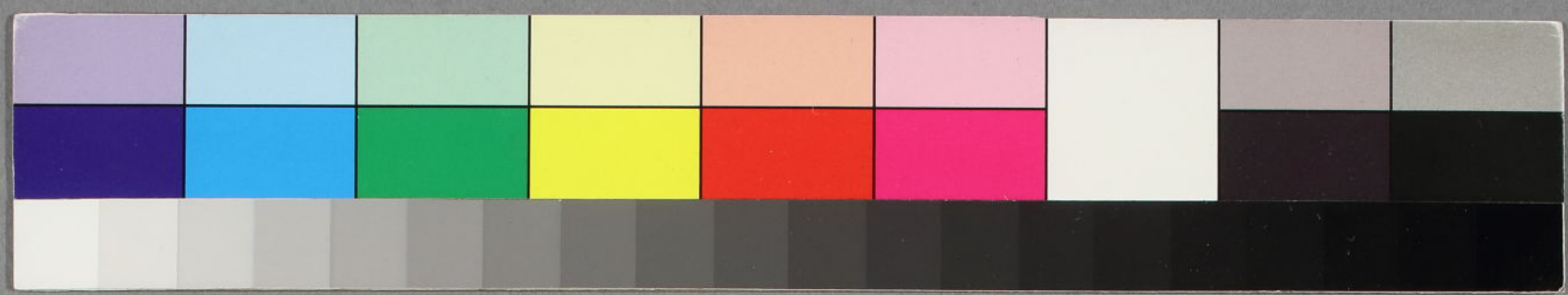




特別  
A5  
6728







付

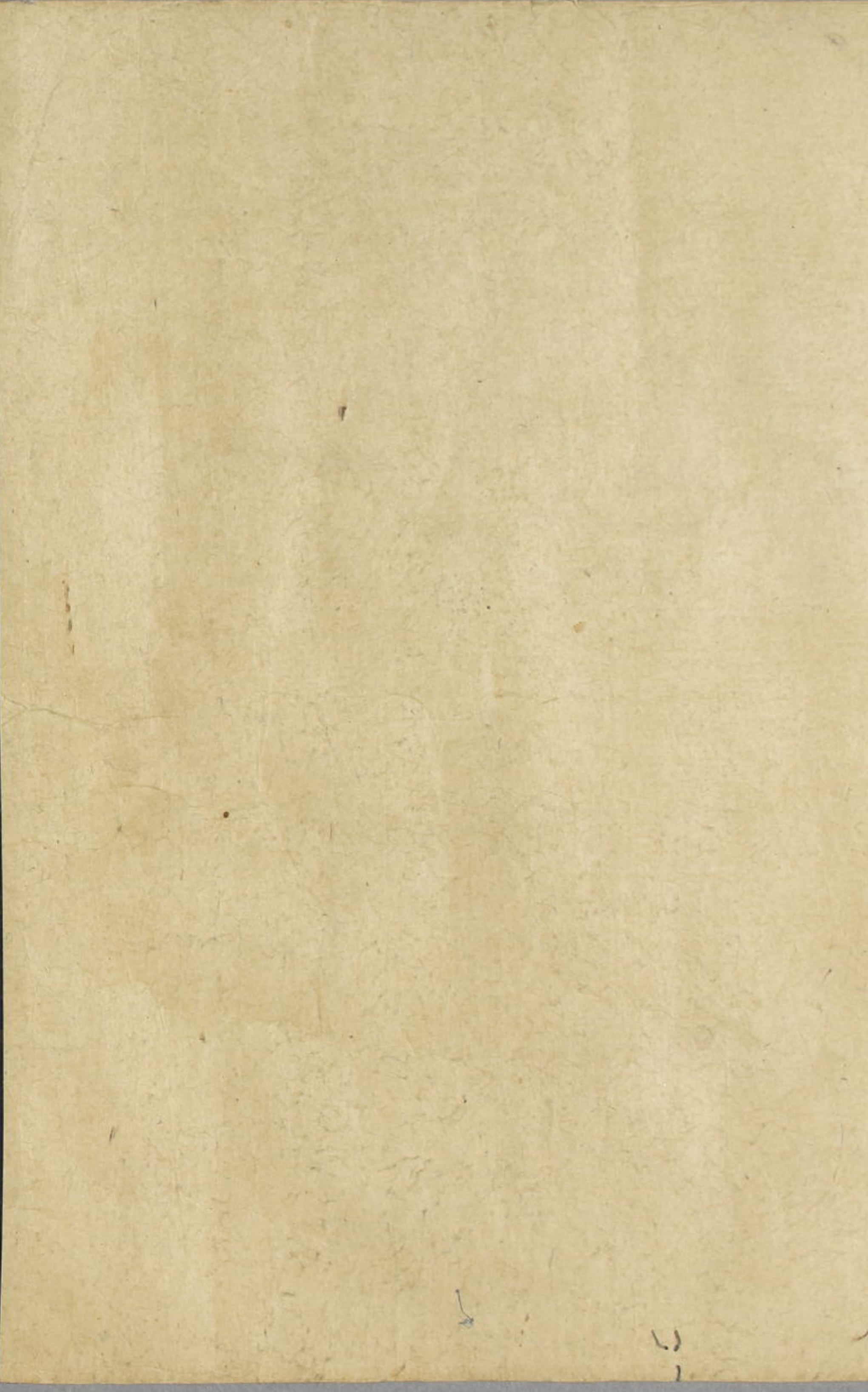
海



田中







特別  
A5  
6728